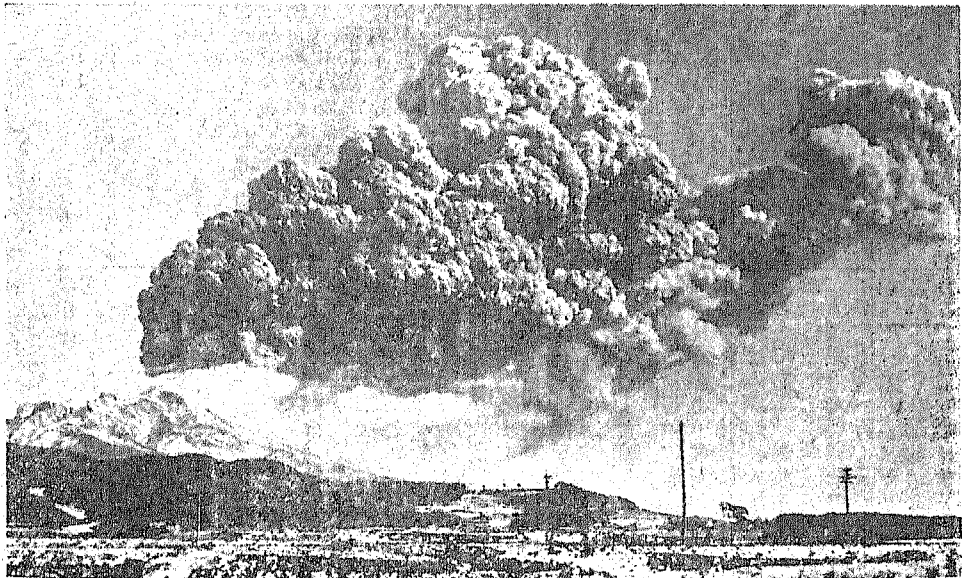


報會曲千

日五十二月三年八十和昭

號六十二第

會曲千人法團社



煙噴の間淺

目次

- △南方視察の記……………中島 茂(三)
- △隨筆 一兵士の日記…狸山長尾(三)
- △科學點描(9)……………(三)
- コーヒーから合成樹脂
カフエリット
- 鉛と肝臓
- △母校便り……………(四)
- 稻垣英吉教授御轉任
- 行軍競技猿訓練
- 郡山長野縣知事來校
- 修練便り
- 製絲教婦養成科卒業證書授與式
- △南方通信……………(五)
- 爪哇千曲會
- △本會記事……………(五)
- 本會日誌
- 統後資金應募者
- 遠藤先生退官記念品受領報告
- 石倉先生退官記念品受領報告
- 會費領收
- △敘任辭令……………(六)
- △訃報……………(七)
- 弔慰金報告
- 弔慰金募集
- 故中曾根長男氏遺兒養育資金
受領報告
- 谷少將無言の御歸還
- 瀧澤を偲ぶ 矢野 進
- △會員動靜……………(七)
- △原稿募集……………(八)
- △石倉先生記念品贈呈資金募集……………(八)

大東亞戰の戦果は着々と其の効を奏し、南方諸地に於ける建設が着々と歩を進めつつある時、南方研究は愈々必要であります。本誌も今後出来る限り此の方面に接觸して行きたいと思ひます。會員各位もどうか御投稿願ひます。本文は昨年三月より六ヶ月間被命に依り海南島始め南方各地を視察されて歸朝した中島茂氏が八月本校に於て學生のために講演されたもの、概略を編輯部に於て速記したものです。此處に同氏に御了解を願ふと共に御禮申上ける次第であります。

南方視察の記

中島茂

私は命により二ヶ月に亘つて南方各地を視察して只今歸りました。此の眼、此の耳で聞いて来たことの概略を御傳へ致します。最初に視察した順路を申上げ、次に順序に従つて御話致します。北部〇〇を歩きつゝどりつして長い日數を経て海南島に着きました。其れからサイゴンへ飛行機で行き、次にバンコックへ行きました。馬車は汽車で過ぎ、汽車と云つても軍用車に至つて粗末なものである。ベナン、クアラランプールを経て海南島へ渡り、更にストラバヤ、パタビヤ、ジャカルタへは飛行機で行き、更にスマトラ(バレンバン)へ行き、最後にサイゴンへ歸つた。其れから〇〇船にて姫路の近くの港へ着きました。

宗教的の手段によりフランスが植民地としたところである。安南人とカンボチヤ人の二種があり、之れをおさへて来たが現在では大東亞戰爭の發生によりおさへられなくなつた。農産物に就てはサイゴン米が第一である。年に北部では一回部は二回收穫し得られる。北部でも二回收穫される可能性はある。農業政策は次の二つがある。一、エステート 二、土民經營農業、栽培方法は極めて幼稚である。例へば水田に水をかけるにザルに水を吸んでかけてゐる、田も日本の様に緑

忠勇なる皇軍が屍をさらした地に忠靈塔が建てられるので其の地ならしをホリヨがやつてゐた、其れを馬來人が氣持よさそうに見てゐた。ホリヨは裸でやつてゐた。軍から衣服は渡してあるが彼等は之を着ないで家へ歸る時に立派になつて行きたいためだそうである。こんな所にも彼等の性格が良く現はれてゐる。

ジャバ

スラバヤへ行つた、此處は蘭印第一の都會港で多數の沈没艦が見られた。動物園があり立派なものである。パタビヤ(ジャカルタ)之れは蘭印第一の都會で第一の熱帯植物園がある。近くに總督官邸があり鹿がゐたが之れは奈良の春日神社の分譲である山である。植物園では樹齡二百年―三百年のものを誇らしく話してゐたが日本には千年も経つたのがあつた云つたら變に思つてゐた。

海南島

支那の新しい政府に屬してゐる、此處は農業資源よりは軍事基地として重要性が大きい。此處には優良なる鐵礦があり之れは熔鑪へ入れるに屑鐵が不用とすることである。農産物は米、落花生がある。大體以上で視察の概略を終るが最後に將來南方へ行く吾等日本人として心掛くべき所感を述べる、第一に科學的要素のあるもの即ち立派なる技術が必要である。第二には日本民族としての教養のあるものが必要なり、第一線は武力により勝敗は決せられるが戦雲おさまつた後に於てはやがて建設が行はれるのであつ

て此の時に於ては南方民族の指導者となつて行くためには人間の教養の向上は最も重要な要素となるであらう。(講演者 養蠶科一(回卒)(文責編輯部)

御挨拶

拜啓時下輕暖の候益々御清榮の段奉慶賀上候者不肖全國蘭商共同施設組合勤務中は格別の御厚情を賜り有難く厚く御禮申上候今般母校相紡織科に勤務致すことに相成候に就ては今後共不相變御指導御鞭撻賜り度奉懇願候先は乍略儀御禮旁々御挨拶迄如斯御座候 昭和十八年三月 絹紡織科 叶澤 弘 敬具

御挨拶

拜啓春暖の候益々御清榮の段奉慶賀候者私儀滿洲棉花株式會社在職中は格別な御厚情を賜り有難く厚く御禮申上候今般國立農事試験場安永水場に勤務致す事に相成り候に就ては今後共一層御眷顧願御禮賜り度伏而御禮申上候先は右御禮旁々御挨拶迄如斯御座候 敬具 昭和十八年三月 熊岳城農事試驗場内 塚田典次

御挨拶

拜啓時下春暖の候益々御清榮の段奉慶賀候者小生事務手懸業務試験場在職中は公私共種々御厚情に預り有難く厚く御禮申上候就ては度三菱商事株式會社漢口支店勤務と相成候間從前通り御厚情に預り度御禮申上候或は失禮をするやも知らずこの點は御宥恕被下度候先は御挨拶申上度如斯に御座候 敬具 昭和十八年三月 漢口江漢路 三菱商事株式會社漢口支店 小林重男

隨筆



一兵士の日記

狸山長尾

十二月×日

もう五時間もベタルを踏んでゐるのに何時かな休止の命令は出なかつた。師走の寒風が耳朶をもぎとるやうに吹きつけ

る中を、私達は背中から腰迄汗びしよになつてベタルを踏んだ。把手を握つてゐる手は車體の小微動に神經が麻痺したやうにしびれる。するする

つと遅れる戦友を「おいーガンバレー！」かう勵ます私の聲も嘎れて力なく、他人の聲のやうであつた。〇〇着、小休止。

此所は有名な醬油の産地である。立並ぶ倉庫の白壁が疲れた眼に痛かつた。その倉庫の間から「あッ！ほれえれえもんだべ、大した〇〇だべがな——」と方言が洩れる。素朴な風景畫である。

私は腹の中の廢物を心ゆく迄排泄してやうやく元氣づいてゐた。萬歳の聲を後に〇〇を出發して三里ばかり来ると、小石の多い悪い路にさしかつた。休みの後の反動的な疲れが足にどつと来る。既に分隊長殿は〇〇で遅れて了つた。各隊でも額にギョー／＼する汗を流し乍らうん／＼とうめいてベタルを踏む兵が散見する。と、やがて彼等は私達にも追抜かれて仕舞ふ。

長い一直線の堤防にかゝつた。踏めども踏めども、強風が横なぐつて、少しも進まない。もゝが痛むのでベタルを二三度踏んでは休む。疲勞が伸した足にうらんと重くかゝるのが分るのである。

「畜生！」私は齒をくびしばる。「おいー残れよー残らんか！」と横で誰かと言ふ。戦友須佐であつた。「ありがたう。いける所迄俺はいくん

だ！」なんだか涙が出が出て来さうだつた。皆もう物を言ふ事すら臆劫で、自分丈は落伍しまいぞといふ氣持で一杯なのにこの一言は涙の出る程有難かつた。

(死んだつておちるものか！) 私はべつとりと額に出てゐる汗を拳で拭つてベタルを踏んだ。陽が昏れた。小休止。埃まみれの顔が

〇〇と田の畦に竝んで動く。星空を眺めるのだ。「白玉の齒にしみとほる秋の夜の酒はひとりで飲むべかりけり」

しみりと誰か唱ふ。茶化す者はない冷水のやうな感傷が皆の上を流れ始めてゐた。そして私は土の冷たさが急に背中に沁みて來たのを感じた。「前進用意！」つき破るやうな聲があたり

の竹籤に響いた。やがて、兵隊が月光を浴びて一人又一人、曲路を右折していくのが見えた。「もうわしの息子もサ、戦死してから三年になるだべがー」と老母はしみん／＼と言ふ。私と今福上等兵の厄介になつてゐるこの農家の床間の上には、黒棹の軍服

姿があつた。たしか上等兵だつた。老母は古ぼけた寫眞帖をめくる。「だからもうハア、こんなもんでは、あれの事思ひ出すより仕方ねえですよ」

おろ／＼とした聲であつた。「死ぬ約束だつたんだべ、あの子は親孝行でしたよ。氣心がよくて……」

哀愁が板戸を揺する。私は此の日本の母が、かう言つて悼む氣持が決して愚痴ではないのを感じた。聞けばまだ靖國神社に合祀せられてゐないのださうな。

風が強い。隙間洩る風に風呂のランプが明滅する。「夢じらせであれの戦死した事知つたんで、役場へいくと、とんでもねえそんな公電來てゐねえ、おまえさんもあつてるもんぢやねえかつて、笑はれたんでやしたがー 次の日公電が入りましただ——」

七十歳だと言ふ老父は、二合の酒に酔ひ舌が少しもつれてゐた。母と父の言葉。いひ知れぬ流れがあるのを私は他人事ならず勿體なく思つた。

私達は、飯の白さに眩惑し、スキヤキの臭に陶然とし、配給のお酒に朦朧として、温かい布圍にくるまつた。軍人であることの爲に(こんな……)と思ふと、急に身のしまるのを覺え私は全身から疲れが抜けていく布圍の中で、何時迄も隙間洩る風の戸を揺るのを聞いてゐた。



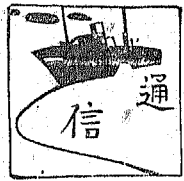
科學點描 (9)

大東亞戰の進展と共に新資源を見出し新發明をすることは科學者に科せられた重大使用である。敵米英に於ても亦あらゆる資源を動員して戰爭目的に向けてゐる。其の一つとして米國はブラジル其他にあるコーヒーから合成樹脂を造り出した。其の方法は豆から粉末を造り平方時當り二〇〇〇—五〇〇〇封度の壓力を加えると永久に堅牢で耐水、破熱、耐アルカリ性(修酸にも耐える)其の上電氣絶縁としても理想的な可塑性が得られる。

其の外副産物としてカフェイン、コーヒー油が得られ、之等の副産物のみでも採算がとれるから之の業は益々旺々となるものと思はれる。其の製色は二種出來一つは思ふ様に何回でも熱に焙かせるものと、他は一度固めると永久に硬化するものとである。

鉛と肝臟 (科學畫報より) 鉛の中毒は古くから知られてゐる。近頃がソリンの効率を高めるために極微量の四エチル鉛をソリンに加ふる、其の他鉛は各方面に使はれる、此の中毒は鉛の微粒子を肺から吸ひ入れるより食物にして食べる方がおこりにくい、此れは血液によつて全身に分布される前に肝臟によつて解毒作用を受けるためである。此の生理作用を利用して鉛を取扱ふ方面の人々には作業中に肝臟製劑をあたることによりてある程度の解毒効果が得られる。

又肝臟の解毒作用は熱によつて破壊されるが、アルカリと共に煮ると無効となる故に肝臟製劑のみならず肝臟自身を食べることによつて解毒作用を生ずる鉛取扱者に推奨されてよい。(發明より)



南方通信

ジャワに遠征して居られる同窓の諸勇士が多忙なる戦争の中にあつてこの正月餘暇を得て竹内部長を中心に集り大いに氣焔を吐かれた由、倉澤教授の下に寄せ書の通信があつた。戦果の擴大に建設に多忙極まる中であつて尙かゝる綿々たる餘裕を示されて居ることは誠に心強き限りである。

爪哇千曲會

始めまして絲二三の秋山實であります。遠き爪哇の地に母袋君と同じ部隊に元氣瀟灑たる精神でやつて居ります。お正月と言ふにシヤツ一枚で南國の珍果ばかりで盛大な千曲會を開催致し候。 絲二三 秋山 實

數日前御葉書を頂戴した、傳田先輩は如何なる理由で退社したかと心配して居ます。今日は實に愉快で嬉しい日です、ジャバで同窓生が六人集るとは夢にも思つて居りませんでした。絲十三高橋先輩は若干遅れました。

椰子嵐聞きつゝ爪哇の千曲會 宮本 豊彦 ジャワ攻略の勇士達此所に會して意氣益々旺んで、遙に先生の健祥を祈りつゝ、西部ジャワ竹内部長の官舎にて

元氣であられることゝ存じます、私も相變らず丈夫であります。いつか會うと考へておましたが母袋君は御手のものゝ自動車心配したり色々かき歩いて同窓を集めてくれました。集るもの六名、矢張りなつかしき限りです。先輩のことを噂申し上げた事です。

集つた諸氏は左の五名に私です。 母袋忠右衛門(蠶二三) 爪哇派遣治第四六三〇部隊 秋山 實(絲二三) 右同

宮本 豊彦(蠶一五) 爪哇派遣治第八八六八部隊 關 照(蠶二三) 爪哇派遣治第四六二六部隊 高橋 誠(絲二三) 爪哇派遣治第一六〇二部隊

私の御存じのことゝ考へて記入いたしました。せん、兎も角こんな所で同じ學校に育つた者が皆集つて話し合ふなんてことは考へても見ませんでした。大部前から母袋君とは話し合つてゐたんですが自動車の心配を母袋君がしてくれて九十キロもあることまで来てくれました。ほんとうに皆元氣です。浦生先生、山口君、校長、林さんによせて書きました。若し部隊が判りませんと思ひました念の爲に書いて置きました。 爪哇派遣治第四六二六部隊平岩隊 竹内 善 吾

南方諸地域に活躍せられる同窓各位の状況を知り合ふために今度南方通信欄を設けました。瘴癘の地に奮闘されて居る諸勇士は勿論建設に孜々として勵まれて居る皆様より南の便りを戴きたく思ひます。(編輯係)

本會記事

本會日誌

二月四日 上高井農學校の火災に對し見舞狀發信す 二月九日 豫算書、決算書、事業成績書農林大臣へ提出す 二月十五日 昭和十七年度會費未納者に對し督促狀發信す 二月十六日 橋本貞雄氏逝去せらる、弔詞を呈す 二月二十五日 會報第二十五號發送す

航後資金應募者

頭書二(トアル)第一回離出者) 1、金六圓也 間 宮 成 吉 1、金貳圓也 中 高 眞 右合計金八圓也 累計金壹千六百拾四圓四拾參錢也

Table with multiple columns listing members and their contributions. Columns include names (e.g., 田中諭一郎, 西村賢治, 吉村三郎), titles (e.g., 同, 同), and amounts (e.g., 五〇〇, 二〇〇, 一〇〇). The table is organized into several sections, likely corresponding to different types of contributions or membership categories.

遠藤先生退官記念品
贈呈資金受領報告 (現三月五日)

金五圓也 中島 貞
右合計金五圓也
累計金八百九圓也

石倉先生退官記念品
贈呈資金受領報告 (現三月五日)

金貳拾圓也 大審 政平
金五圓也 大谷 隼人
金貳圓也 椎屋 藤良
金貳圓也 林部 源三郎
金貳圓也 平林 茂
金貳圓也 宮田 鐵五郎
金壹圓也 岩本 一郎
右合計金六拾八圓也
累計金六拾八圓也

會費領收 (現三月五日)

入會金納入者
完納者
諸岡 市郎(紡二)
金五圓也 小林 敏夫(蠶三)
昭和十八年度會費金四圓也
堀川 友治(蠶三) 茂(蠶六)
富部 豊(蠶元) 小林(蠶三)
味澤 泰造(絲五) 寺島 孝一(絲七)
大谷 隼人(紡七) 坂 求(紡九)
昭和十七年度會費金四圓也
小川 輝一(蠶四) 佐藤 俊三(蠶六)
木谷 良雄(蠶七) 勅使河原保(蠶八)
後藤 仙彌(蠶九) 小中 潔(蠶三)
大越 信(蠶四) 櫻井 弘吉(蠶五)
今井 和(蠶六) 坂本 武(蠶六)
金峰 義松(蠶七) 北澤 卯一(蠶八)
加藤 省三(蠶九) 中島 延榮(蠶九)
杉浦 卓三(蠶三) 中島 眞(蠶三)
山崎 勝巳(蠶三) 小野 正喜(蠶三)
渡邊 嘉博(蠶三) 中野 忠(蠶三)
奥村 忠治(蠶三) 菱田 政二(蠶三)

鈴木 高行(蠶四) 戸塚 一(蠶四)
中村 繁(蠶五) 清水 英人(蠶五)
富部 重雄(絲八) 石澤 正造(絲五)
大塚 得三(絲二) 味澤 巖保(絲三)
大田 正治(絲三) 金野 孝三(絲三)
五島 小太郎(絲五) 南林 孝三(絲三)
安田 辰巳(絲七) 黒澤 義彦(絲二)
長谷川 弘平(絲七) 村上 龜久(絲七)
藤井 温彦(絲元) 關 三四郎(絲七)
川村 五郎(絲三) 伊藤 猛(絲三)
小菅 俊三(絲三) 野本 信次(絲三)
佐藤 俊郎(絲元) 村上 貴昭(絲元)
藥師寺 宏吉(絲元) 橋本 和夫(紡六)
大谷 隼人(紡七) 立木 一千(紡三)
淺沼 義彦(紡三) 鈴木 一郎(紡三)
小澤 信夫(紡四) 川合 正信(紡六)
終身會費納入者
塚田 庸男(蠶元) 高木 修(蠶三)
宮坂 榮(絲六)
未納會費納入者
金參拾八圓也
昭和十六後期七、八、九、十、十一、十二、十三、十四年度分
金拾貳圓也(昭和十三、十四、十五年度分)
金八圓也(昭和十二、十六年度分)
金四圓也(昭和十六年度分)
小中 潔(蠶三) 伊藤 猛(絲三)
中島 眞(蠶三) 多田 和(蠶六)
大谷 隼人(紡七) 川合 信夫(紡六)

叙任辭令

現職員之部
上田 蘇絲專門學校教授 岡 徳治郎
陸彼高等官二等 奧 正巳
陸彼高等官四等以上(二月一日)
卒業生之部
陸彼高等官六等(二月八日)九級停下賜
依願免本官(二月九日)
地方技師 小林 重男

農林省畜産試験場報告類

畜産試験場報告	鶏に於ける人工受粉の研究	二六
カゼインの乾燥に関する試験	各種飼料中の蛋白質養分値に	四
各種飼料(第一報)	豚の傳染性流産性に就て	八
鶏卵の工業的利用に関する研究	(第一報)可塑體原料としての卵	八
白に就て	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第二十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第三十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第四十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第五十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第六十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第七十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第八十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十一報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十二報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十三報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十四報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十五報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十六報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十七報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十八報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第九十九報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八
各種飼料(第一百報)	各種飼料中の蛋白質養分値に	八

地方農林技師 荻原 孫三
 八級俸下賜(十七年九月二十五日)
 公立實業學校教諭 花岡 作彌
 公立實業學校校長=任ス 高等官四等特選
 南東北農學校長=補ス
 公立實業學校校長兼教諭 山本辰五郎
 本報青年學校校長=任ス 高等官四等特選
 (以上二月十日)
 勳六等 母袋忠右衛門
 敍勳五等授瑞寶章(二月九日)
 公立實業學校校長 田中 康雄
 八級俸下賜(十七年十二月三十一日)
 從七位 小林 重男
 敍正七位(二月八日)

本校辭令

副手 上野 義一
 願ニ依リ副手ヲ免ス(三月十九日)
 副手 目崎 正夫
 願ニ依リ副手ヲ免ス(三月二十五日)
 副手兼講師 前島 正直
 願ニ依リ副手ヲ免シ兼講師ヲ解ク(三月二十五日)

計報

弔慰金報告

(三月五日)

故唐澤正氏弔慰金 市 田 義夫
 金貳圓也 市 瀨 武壽夫
 右合計金五圓也
 累計金拾六圓也
 故原利直民弔慰金 小 松 忠一郎
 金五圓也 右合計金八圓也
 累計金八圓也
 故尾崎吉俊氏弔慰金 伊 藤 要次郎
 金壹圓也 右合計金壹圓也
 累計金壹圓也
 故瀧澤七郎氏弔慰金 市 松 吉 博
 金貳圓也 市 信 二 清水 良一
 右合計金七圓也
 累計金貳拾壹圓也

故中會根長男氏遺兒 (三月五日)
 養育資金受領報告 (現)
 金參圓也 古 越 光 明
 右合計金八圓也 鶴 谷 正 男
 累計金貳拾壹圓也

弔慰金募集

故福谷朝太郎氏 (蠶 一)
 故福本貞雄氏 (蠶 廿四)
 故北澤孝一氏 (蠶 廿五)
 故瀧澤七郎氏 (蠶 廿六)
 故井上正人氏 (蠶 廿六)
 以上五氏に對し弔慰金を募集致します。
 故福谷氏は三月末日、故福本氏は四月末
 日、故北澤氏、故瀧澤氏、故井上氏は五
 月末日迄に取組め御遺族へ贈呈致した
 と思ひます。未だ間に合ふ様振替口
 座東京四三三四一各故人に對する弔
 慰金の旨御記入の上御柳込下さい。
 昭和十八年三月 社団法人 干 曲 會

谷少將無言の御歸還

昭和十七年十一月北支に於て戦病死された
 元母校配屬將校谷少將の御遺骨は三月十四日
 夜上田驛に下車、官民多数の出迎を受け焼香
 を捧げられた。翌十五日母校職員學生見送
 の中を原隊高崎に向け歸還された。母校に在
 任當時を偲び感慨一しを新たなるものがある
 謹んず英靈の御冥福を祈る。

瀧澤君を偲ぶ

矢野 進

正月十七日、日曜日、今年になつて珍しい
 雪の朝、私は永らく心掛りになつて居た瀧澤
 君への御見舞を思ひ立つて、下り列車に乗り
 込んだ。川中島の驛で下り幾度か歩き馴れた
 田圃中の道を通つて四屋の瀧澤君の家に着い
 たのは晝も少し廻つた頃だつた。何時もなが

ら御両親の慈愛深く看顧の下に安らかにやす
 んで居られた瀧澤君は、微笑を湛へて私の訪
 問を喜んで呉れた。其の枕許で二人は、母語
 の様子や、同級生の消息をあれやこれやと語
 り合つた。就中昨年の暮の若林君の結婚は病
 床に無聊を嘲つ瀧澤君と、私との間の話題の
 中心となつた。其の時の瀧澤君は語調も確り
 してゐて「俺も早く元氣になつて戦地から歸
 つた同級生に逢つてみたいものだ」等とも語
 りなふと思つて、なにか安心して氣持で一
 日も早く良くなるやうにと勵して黄昏近き瀧
 澤君の家を辭去した。

編輯後記

(昭和十八年二月一日)

その日瀧澤君の訃報に接しやうとは夢にも
 思はなかつた。人生は朝露の喩、生者必滅の
 大理と云ふもの、二十六才の春を果なく散
 つた瀧澤君と机を並べて三年間の螢雪の苦を
 共にした私は、喉に映る君の面影、耳底に残
 る君の言葉に、且又慈愛限り無き御両親の心
 情に思ひ及びて涙が頬を傳はるのを禁じ得な
 かつた。

間も無く健康を取り戻した君は其の當時設立
 開校せられた長野市立中學校の物象の先生と
 なつた。十七年三月風邪をおして學期末の職
 員會に出席したのが禍して君は再び病床に横
 はる身となつた。それが原因で遂に立上る事
 は出来なかつた。
 こうして君は二十六年の短い人生の道を實
 に立派に歩んだ。其の發病の動機は何れも教
 育者としての職責を忠實に全うした處に始
 つてゐる。
 共に遊び、共に學び、君の教育者としての
 將來を深く嚆望せしに、嗚呼、君既に白玉樓
 中の人となる。思へば只々哀悼の念禁じ難く
 茲に拙文を草して冥福を祈る。

會 員 動 靜

(三月十日現在)

稻垣 英吉 (現職) 日本化成工業大竹工場(廣島縣佐伯郡大竹町、電話大竹 四番 二三番)
 花岡 三郎 (現職) 日本沼津研究所(沼津市、住)沼津市住吉町三三七/二
 小笠原 三郎 (現職) 長野縣南安部農學校校長(住)南安縣郡德高町
 芝 荒雄 (現職) 自營(住)熊本縣本郡六郷村大字下間田
 市川 清 (現職) 八三 電話一五一三 鹿兒島縣經濟部蠶絲課長兼鹿兒島縣蠶業取締所(住)鹿兒島市藥師町
 日本蠶絲統制、埼玉出張所(住)埼玉縣浦和市南領家一、三二九(二月
 號千尚會報訂正)

寺島 雅彦 (蠶三) 名古屋市山田部隊佐久間隊(留)愛知縣鳴海町上中町一五、寺島彦一
 竹内 直人 (蠶六) 日本蠶絲統制、金澤生絲事務所(金澤市彦三、五番丁一〇番地)
 (住)金澤市早道町七五
 秋山 俊雄 (蠶三) 牡丹江省綏西滿洲第四六一二部隊本部
 岡島 龜治 (蠶三) 滿洲柳豐、安東支店(安東市大和區江岸通五二)(住)安東市旭日區北
 二條通一七
 多田 作造 (蠶三) 近藤製絲所(愛知縣東春日井郡高藏寺町、電話三〇番六六番)(目下愛
 知縣丹羽郡扶桑村高藏、愛知蠶種共同施設組合扶桑製絲所(出張中)
 公用
 香山 至 (蠶三) 長野縣下高井農林學校(下高井郡那珂高村)
 多田 忠正 (蠶三) 四平省立開原國民高等學校(住)開原街東洋街四一
 鈴木 高行 (蠶三) 鐘紡內蠶業部(神戸市林田區御崎町)
 塚田 典次 (蠶五) 熊岳城農事試驗場(奉天省蓋平縣熊岳城)
 春山 武 (蠶三) 長野縣立小諸商業學校(北佐久郡小諸町)(住)上田市常田町五、一四
 七(青山藤次郎方)
 近藤 員矣 (蠶三) ビルマ派遣号六八二五部隊中野隊
 目崎 武美 (蠶三) 北支、甲一六四九部隊高田隊、陸軍少尉
 荻原 孝三 (蠶三) 本校纖維化學科與研究室(住)長野縣北佐久郡岩村田町西本町二七
 小川 泰弘 (蠶三) 中支、四五五八六部隊、陸軍少尉
 橫關 源延 (蠶三) 北海道帝大理學部植物學科、學生(住)札幌市北十條西四丁目靜雅莊
 鈴木 康之 (絲二) 風來寺高等家政女學校(住)愛知縣南設樂郡新城町字八幡一五番地、
 一
 青木 永次郎 (絲四) 片倉製糖工場(岐阜市辨天町二三)
 堤 玄 (絲九) 上海福州路五三、萬和(家族)白桦(住居)
 關口 德三 (絲二) 交水製絲株式會社本社(前橋市榮町一〇番地)
 南林 孝三 (絲三) 鐘紡出張所(神戸市神戶區新港町三井倉庫内)
 渡邊 康平 (絲四) 日本蠶絲統制、福井生絲事務所技師(福井市佐佐木中町)(住)福井市
 清川上町六一(佐藤方)
 吉井 温彦 (絲六) 中野絹織株式會社(八王子市大和田町三一〇)
 藤井 鼎 (絲六) 朝鮮製絲協會、京城市府旭町一、六三蠶絲會館(公)(留)朝鮮京城府上
 道町六一 藤井幸子
 井上 正人 (絲三) 昭和一八、二、一七病死
 清水 文雄 (絲三) 東部五〇部隊小野山隊
 兒玉 忠雄 (絲三) 日本フェルト工業株式會社(姫路市城東街)
 蕨 一義 (絲三) 日本フェルト工業株式會社(姫路市城東街)(公)(留)大分縣西國東郡
 高田町下米二四二(蕨サジ)
 田爪 正紀 (絲三) 西部一六部隊島越隊教育隊三班(留)熊本市出水町今二九三吉住ヨシ
 方
 橋本 和夫 (紡六) 龜山製絲株式會社(三重縣鈴鹿郡龜山町)(住)龜山町東町五五九
 椎屋 藤良 (紡七) 宮崎市都城市沖水金田町
 平野 岩夫 (紡九) 三井造船株式會社(住)岡山縣玉野市和田二五八
 淺沼 榮男 (紡三) 廣島縣三原市本町一七二九、一
 古平 利男 (紡三) 滿洲六九七部隊河合隊(濱江省阿城)
 小川 利治 (紡三) 吳羽紡績製糖工場(長野縣南安曇郡豊科町)
 橋詰 紀人 (紡三) 北支、楓四二五七部隊島山隊
 岩林のち子 (紡三) 金澤市、東部五五部隊大南隊
 長野縣小縣郡中塩田村中野區

昭和十八年三月二十日印刷
 昭和十八年三月二十五日發行
 第二十六號 【非賣品】

原稿募集

前線に活躍する多数の會員は會報の到着を首を長くして待つてゐます。慰問袋の送れない昨今内容ある會報を送つてあげることは前線會員をどんなにか喜ばせることとせう。内容は論説、研究、隨筆、體験談、時折りに起つた朗かな出来事、會員の活躍振り、職場の断片等何んでも結構です。から慰問文のつもりでどしどしと御投稿を願ひます。(保り)

石倉先生記念品贈呈資金募集

拜啓 時下愈々御清適之段奉慶賀候。御就任以來今日迄實に參拾有餘年の久しきに亘り母校のため將又我國絹業開發のために全力を傾けて御盡瘁下され其御功績眞に甚大にして吾々會員一同常に感佩に不堪處に有之候。然るに今般御家庭の都合上、内外の御留任懇請も御總容れ願へず母校御退職の上最近建築竣工せる東京郊外の御新居に御轉宅被遊候。就ては此際先生の御功績を讃え且多年の勞に酬ひんため資金を募集し記念品を贈呈し聊か感謝の微意を捧げ度く候間左記要項御諒承相成御贊同の上御醸金被下度此段御依頼旁々貴意得候。

- 募 集 要 項
- 一、贈出金額 御隨意
 - 一、申込期限 本年四月末日
 - 一、送金先
 - 上田蠶絲專門學校千曲會
 - 宛(振替口座)長野野六二四
 - 三番)但石倉先生記念品
 - 贈呈資金なる旨御明記願
 - 上候
 - 一、受領證及收支清算報告 千曲會報五月號の紙上にて報告す
- 一、記念品の選定及贈呈方
 昭和十八年一月 發起人に御一任相成度 以上
- 發起人(順序不同)
- | | |
|-------|--------|
| 鈴木 敦吾 | 林 貞三 |
| 森山 美徳 | 菅生 俊興 |
| 倉澤 美徳 | 野口 新一郎 |
| 松原 季美 | 小松 忠一 |
| 湯原 清和 | 遠藤 文平 |
| 香山 忠雄 | |

昭和十八年三月二十日印刷 (非賣品)
 昭和十八年三月廿五日發行
 上田蠶絲專門學校内
 編輯兼 發起人 萩原 清治
 發行人 上田市原町五七九五
 印刷人 上田市原町五七九五
 上田市原町五七九五
 印刷所 中澤印刷所
 發行所 上田蠶絲專門學校内
 社団法人 千曲會
 電話 上田四〇六番、六六一番
 振替口座(長野)四三三番
 振替口座(長野)六二四三番

發行所 上田蠶絲專門學校
 社団法人 千曲會
 (振替口座)長野野六二四三番
 (振替口座)長野四三三番